

平成29年9月18日～9月30日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について
（平成29年度第20報）【2019年11月修正版】

1. この期間(9月18日～9月30日)の全国の暑さ指数(注1)の観測状況について
6都市(*)の日最高WBGTの平均値は、25日には過去5年間の平均値を2℃以上上回りましたが、その前後は平均値程度で経過しました。

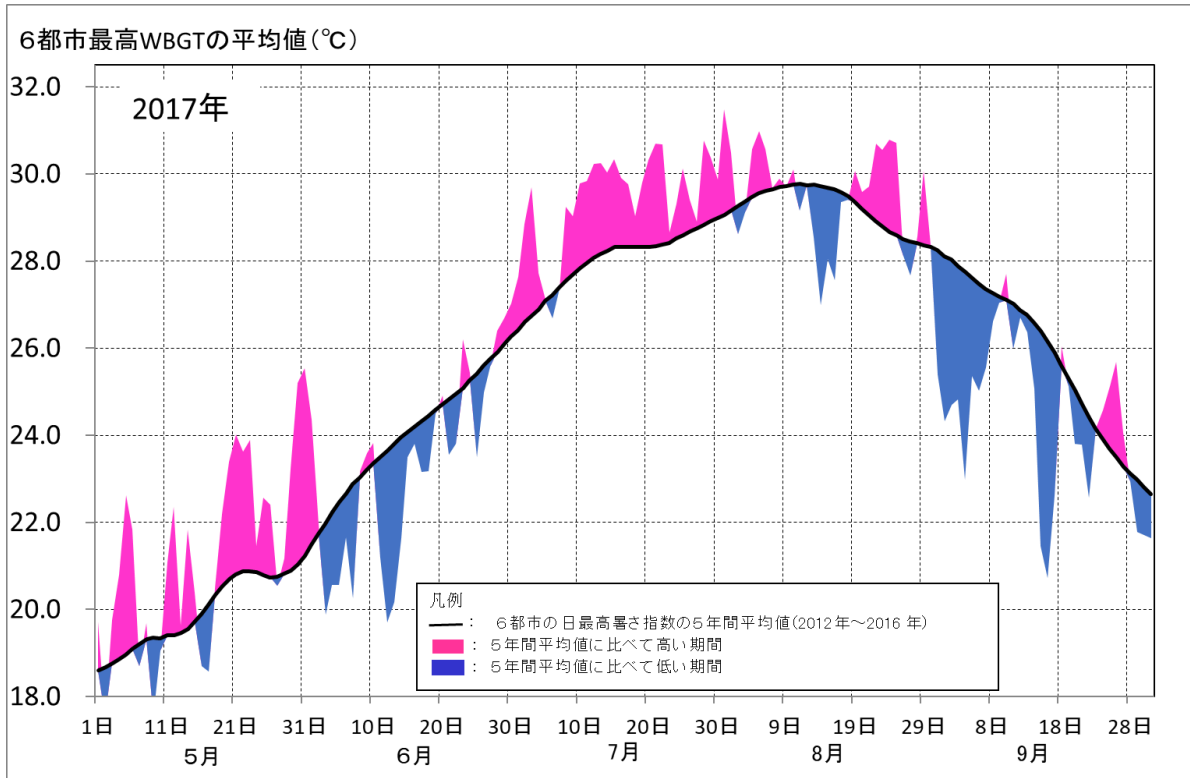


図1-a 全国の暑さの動向の過去5年間の平均との比較

(*) 6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市

表1-a 全国9都市の毎日の最高暑さ指数(9月18日～9月24日)

日	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島	6都市平均
18	19.6	24.9	23.5	29.3	25.9	25.5	24.4	27.6	28.9	26.0
19	20.6	24.4	23.2	27.1	24.3	25.5	23.8	26.9	27.4	25.1
20	22.5	23.9	23.8	23.6	23.4	23.4	23.7	24.9	27.0	23.8
21	18.0	21.5	23.4	23.8	23.1	24.0	23.0	25.4	21.8	23.8
22	21.4	21.2	24.8	24.0	20.4	20.6	20.4	25.2	28.6	22.6
23	21.1	20.6	25.0	22.2	25.3	24.8	23.0	24.7	27.3	24.2
24	20.8	24.3	23.8	27.1	23.1	24.3	23.7	25.4	22.9	24.6

表1-b 全国9都市の毎日の最高暑さ指数(9月25日～10月1日)

日	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島	6都市平均
25	20.4	23.5	23.9	27.0	23.6	25.3	24.0	27.0	26.9	25.1
26	18.8	23.3	23.5	27.4	25.5	25.8	24.6	27.3	28.3	25.7
27	19.4	24.7	24.5	24.5	24.8	24.4	21.6	24.5	27.1	24.1
28	12.6	19.8	20.1	23.5	23.3	22.4	23.4	25.0	27.8	23.0
29	16.4	19.0	20.2	22.6	21.3	21.9	21.8	22.9	23.8	21.8
30	15.1	20.4	20.9	22.6	19.3	22.2	21.7	23.6	24.8	21.7
1	17.3	20.9	21.8	23.9	22.8	21.4	20.8	19.1	26.5	21.6

表 1-c 全国 9 都市の 1 週間（9 月 18 日～9 月 24 日）の暑さ指数超過時間数

超過時間数	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島
31℃以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28℃以上	0	0	0	4	0	0	0	0	5
25℃以上	0	0	1	13	6	5	0	15	36

表 1-d 全国 9 都市の 1 週間（9 月 25 日～10 月 1 日）の暑さ指数超過時間数

超過時間数	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島
31℃以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28℃以上	0	0	0	0	0	0	0	0	2
25℃以上	0	0	0	9	2	4	0	11	39

(注 1) 9 都市の暑さ指数は、環境省の黒球温度観測資料と気象庁の観測資料から推定した値です。暑さ指数については参考資料をご覧ください。

2. 6 都市の日最高暑さ指数 (WBGT) と熱中症による救急搬送者数 (全国) との関係

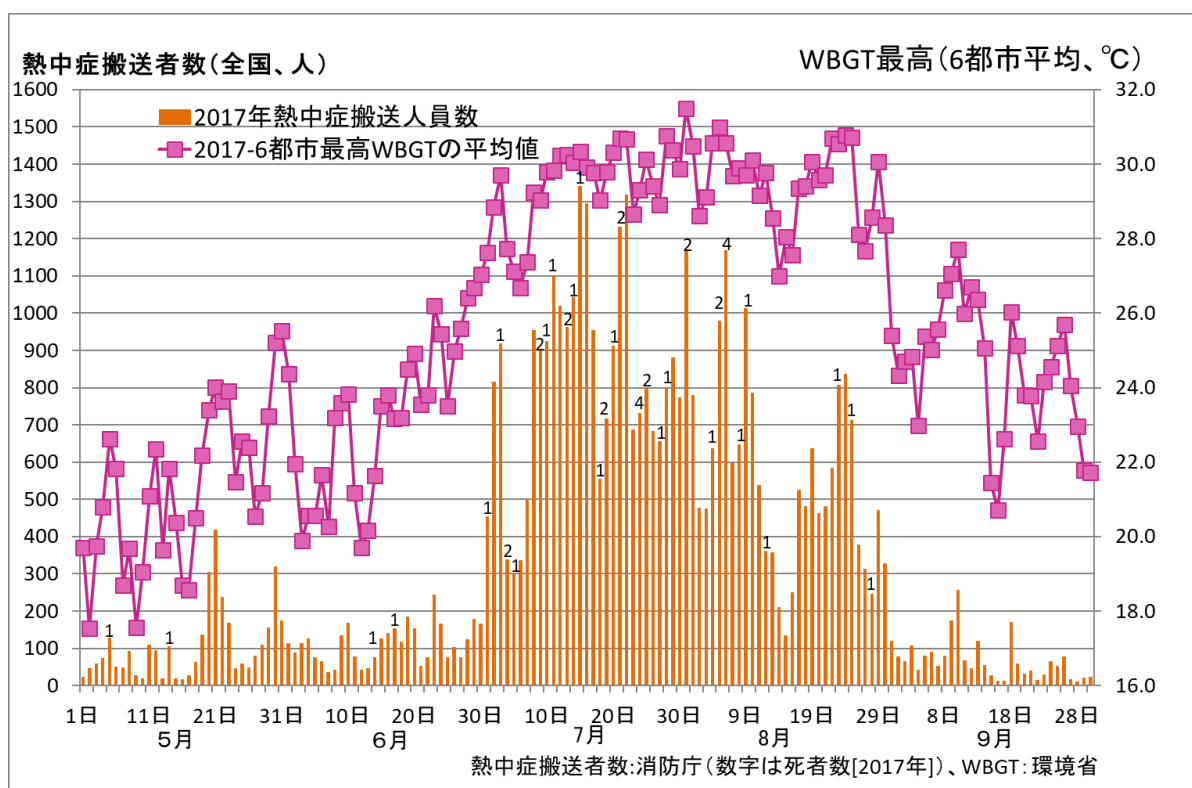


図 2 -a 6 都市の日最高 WBGT と熱中症搬送者数の推移

○この期間は、6 都市平均の日最高暑さ指数 (WBGT) が低めに経過したこと (図 1-a 参照) もあり、鹿児島・東京のみ 28℃を超えた日もありました。(表 1-a～d 参照)。消防庁発表の速報では、熱中症による搬送者数は、2 週間で 1000 名以下でした。死亡者はありませんでした。

3. 今後の見通しと注意点

○10 月に入りましたが、今後一週間は西日本では日最高気温が 25℃を超える日も予想されています (10 月 3 日時点)。一時的であっても暑くなる可能性がありますので、天気予報などを参考にして、蒸し暑くなった日は、こまめに水分補給や休息をとることなど、体調管理には十分注意してください。

(参考)

「暑さ指数」について

熱中症を引き起こす条件として「環境」は重要ですが、我が国の夏のように蒸し暑い状態では、気温だけでは暑さは評価できません。熱中症に関連する、気温、湿度、日射・輻射、風の要素を積極的に取り入れた指標として、暑さ指数(WBGT: Wet-bulb Globe Temperature:湿球黒球温度)があり、特に高温環境の指標として労働や運動時の予防措置に用いられています。

暑さ指数を用いた指針としては、日本体育協会による「熱中症予防運動指針」日本気象学会による「日常生活における熱中症予防指針」があり、暑さ指数に応じて表1-1に示す注意事項が示されています。また、夏期には、全国約840地点の暑さ指数の実況値・実況推定値や予測値が「環境省熱中症予防情報サイト」(<http://www.wbgt.env.go.jp/>)で公開されています。また、市民マラソンにおける指針については、Hughson(カナダ)による指針が提案され、アメリカやカナダで用いられています。

暑さ指数について

● 日常生活に関する指針

温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31°C以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28~31°C※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28°C※)	中等度以上の生活 活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25°C未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する 危険性がある。

※ (28~31°C) 及び (25~28°C) については、それぞれ28°C以上31°C未満、25°C以上28°C未満を示します。
日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より